

## 市立小・中学校の校舎等における老朽化対策調査等について

## 1 趣旨

本市の市立小・中学校（以下「学校」といいます。）の校舎、体育館及び武道場（以下「校舎等」といいます。）は、建築後40年が経過した建物が全体の半数を超えるなど、老朽化が進んでいることから、今後も安全・安心な児童・生徒の学習環境を確保するため、計画的に老朽化対策を行っていく必要があります。

このことから、平成26年度から平成28年度までの3年間にわたり校舎等の老朽化対策調査を行ったものです。また、当該調査の結果を踏まえ、校舎の老朽化対策の優先度に応じたグループ分けを行ったものです。

## 2 老朽化対策調査の概要

## (1) 調査対象

学校の校舎等（平成19年度以降に増改築した市立府中第十小学校、市立府中第三中学校及び市立府中第五中学校の校舎等は除きます。）

## (2) 調査結果

項目	内容	方法	結果
構造 躯体	コンクリートの圧縮強度	コンクリートコアの採取	ほとんどの建物で一定以上の強度は確保されていたが、一部の建物で13.5ニュートンパー平方ミリメートル以下の強度（文部科学省が作成した学校施設の長寿命化改修の手引において、コンクリートの強度不足により長寿命化改修に適さないとされる強度）となっている状況が見受けられた。
	コンクリートの中性化		ほとんどの建物で建物外部の中性化は見られなかったが、一部の建物で中性化が3センチメートル以上進行している状況が見受けられた。
意匠・設備	仕上材、機械設備、電気設備等の劣化状況	改修履歴の確認及び目視による外観調査	屋上、外壁及び内装は、改修の有無などにより状況は異なるが、半数程度の建物で経年による劣化が見受けられた。また、給排水などの機械設備は、大規模な改修が未実施であることから、多くの学校で経年による劣化が見受けられた。

### 3 校舎の老朽化対策の優先度に応じたグループ分けの概要

#### (1) グループ分けの考え方

ア 校舎は、増築などにより複数の建物によって構成されていることから、学校単位で分類を行います。

イ 老朽化対策調査の結果における校舎の構造躯体及び意匠・設備の状況に加え、校舎の建築年数を考慮した総合的な評価を行い、早期改築着手校、1グループ及び2グループに分類します。

ウ 老朽化対策の優先度は、早期改築着手校、1グループ及び2グループの順となります。

#### (2) 各グループの条件

ア 次のいずれかの条件に該当する校舎を保有する学校を1グループとします。

(ア) 建築後の年数が、平成28年度末時点で50年以上経過している校舎を保有する学校

(イ) コンクリートの圧縮強度が、13.5ニュートンパー平方ミリメートル以下の校舎を保有する学校

(ウ) コンクリートの中性化が、建物の外側から3センチメートル以上進行している校舎を保有する学校

イ 校舎の建築年数や構造躯体及び意匠・設備の状況を考慮し、早期に老朽化対策を実施する学校として、1グループに分類した学校から選定した2校を早期改築着手校とします。

ウ 上記アの条件に該当しない学校を2グループとします。

#### (3) グループ分けの結果

グループ	学 校 名	
早期改築着手校 (2校)	小学校 (1校)	八小
	中学校 (1校)	一中
1グループ (10校)	小学校 (8校)	三小、四小、五小、六小、七小、九小、武蔵台小及び矢崎小
	中学校 (2校)	二中及び六中
2グループ (21校)	小学校 (13校)	一小、二小、十小、住吉小、新町小、本宿小、白糸台小、若松小、小柳小、南白糸台小、四谷小、南町小及び日新小
	中学校 (8校)	三中、四中、五中、七中、八中、九中、十中及び浅間中

### 4 今後の予定

#### (1) 早期改築着手校

早期改築着手校については、平成30年度末に策定を予定している府中市学校施設改築・長寿命化改修計画（仮称）の作成と並行して、平成30年度に校舎等の改築に係る基本構想の作成に着手します。

(2) 1グループ及び2グループ

1グループ及び2グループについては、今回、実施した老朽化対策調査の結果に加え、児童・生徒数の将来推計、教育環境、近隣の公共施設の状況等を踏まえ、総合的に判断した老朽化対策の優先度を府中市学校施設改築・長寿命化改修計画（仮称）において、必要な範囲で示します。